

前回（11月12日）以降の原子力規制庁の動き

令和7年12月3日
柏崎刈羽原子力規制事務所

原子力規制委員会（凡例：議題番号→①、原子力施設等におけるトピックス→㊦）

11/19 第41回原子力規制委員会

①令和7年度第2四半期の原子力規制検査等の結果

11/20 第43回原子力規制委員会 臨時会議

③令和7年度第2四半期の原子力規制検査等の結果（核物質防護関係）

審査実績

【6号機 特定重大事故等対処施設に関するもの】

審査会合：なし

ヒアリング：なし

資料提出：なし

【6号機 設計及び工事の計画の認可に関するもの】

審査会合：なし

ヒアリング：なし

資料提出：なし

【7号機 特定重大事故等対処施設に関するもの】

審査会合：なし

ヒアリング：11/13、11/17

資料提出：なし

規制法令及び通達に係る文書

11/18 令和7年度第2四半期の安全実績指標の報告を受理

11/19 令和7年度第2四半期の検査報告書の公表

11/28 東京電力ホールディングス(株)から柏崎刈羽原子力発電所第6号機の設計及び工事の計画の認可申請書を受理

被規制者との面談

11/11 柏崎刈羽原子力発電所の申請の現状に関する面談

11/20 柏崎刈羽原子力発電所の申請の現状に関する面談

11/21 東京電力ホールディングス株式会社の柏崎刈羽原子力発電所6号炉及び7号炉における地震等に関する資料の受取

11/27 東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所第6号機の格納容器内水素濃度計(SA)の対応に関する面談

その他

なし

放射線モニタリング情報

放射線モニタリング情報を以下のポータルサイトで公開

・全国のモニタリングポスト等の測定値をリアルタイムで配信するとともに、原子力災害の発生時には緊急時モニタリングの結果も公開：<https://www.erms.nsr.go.jp/nra-ramis-webg/>

- ・ 東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故以降の環境放射線モニタリング結果を
公開 : <https://radioactivity.nra.go.jp/ja>
- ・ 47 都道府県における環境放射能調査等の結果を公開するとともに、放射能と放射線に関する
基礎知識などの情報も掲載 : <https://www.envraddb.go.jp/>

以 上

東京電力ホールディングス株式会社

柏崎刈羽原子力発電所

令和 7 年度(第 2 四半期)

原子力規制検査報告書

(原子力施設安全及び放射線安全に係る基本検査)

令和 7 年 11 月

原子力規制委員会

目 次

1. 実施概要	1
2. 運転等の状況	1
3. 検査結果	2
4. 検査内容	2
別添 1 確認資料	
1 日常検査	別添 1-1
2 チーム検査	別添 1-14

1. 実施概要

(1) 事業者名： 東京電力ホールディングス株式会社

(2) 事業所名： 柏崎刈羽原子力発電所

(3) 検査期間： 令和 7 年 7 月 1 日～令和 7 年 9 月 30 日

(4) 検査実施者：

柏崎刈羽原子力規制事務所

伊藤 信哉

出水 宏幸

伊藤 健

野澤 俊也

武岡 英二

原子力規制部検査グループ核燃料施設等監視部門

後藤 拓巳

小野 真人

原子力規制部検査グループ専門検査部門

森田 憲二

津田 光伸

義崎 健

坂本 千明

大江 勇人

検査補助者：

柏崎刈羽原子力規制事務所

百瀬 元善

原子力規制部検査グループ専門検査部門

藤本 文明

増田 稔

末永 憲吾

2. 運転等の状況

号機	電気出力 (万 kW)	検査期間中の運転、停止、廃止措置及び建設の状況
1 号機	110.0	停止中
2 号機	110.0	停止中
3 号機	110.0	停止中
4 号機	110.0	停止中
5 号機	110.0	停止中

6号機	135.6	停止中
7号機	135.6	停止中

3. 検査結果

検査は、検査対象に対して適切な検査運用ガイド(以下単に「ガイド」という。)を使用して実施した。検査対象については、原子力検査官が事前に入手した現状の施設の運用や保安に関する事項、保安活動の状況、リスク情報等を踏まえて選定した。検査においては、事業者の実際の保安活動、社内基準、記録類の確認、関係者への聞き取り等により活動状況を確認した。ガイドは、原子力規制委員会ホームページに掲載されている。

第2四半期の結果は、以下のとおりである。

3.1 検査指摘事項等

検査指摘事項等なし

3.2 検査継続案件

検査継続案件なし

4. 検査内容

4.1 日常検査

(1) BM0020 定期事業者検査に対する監督

検査項目 定期事業者検査

検査対象

- 1) 6号機 原子炉冷却材喪失事故論理回路、外部電源喪失事故論理回路の機能検査
- 2) 6号機 ディーゼル発電機、非常用炉心冷却系(原子炉隔離時冷却系を除く)、原子炉補機冷却系機能検査
- 3) 6号機 原子炉格納容器スプレイ系機能検査
- 4) 6号機 原子炉格納容器隔離弁機能検査
- 5) 6号機 可燃性ガス濃度制御系機能検査

(2) BM1040 ヒートシンク性能

検査項目 ヒートシンク性能

検査対象

- 1) 6号機 原子炉補機冷却海水系取水路点検【令和7年度第1四半期に検査を

開始したもの】

- 2) 6 号機 取水路角操作時の原子炉補機冷却海水系 (C) 取水槽水位低下事象【検査未了】

(3) BM0060 保全の有効性評価

検査項目 保全の有効性評価

検査対象

- 1) 6 号機 原子炉内蔵型再循環ポンプの点検周期延長【検査未了】

(4) BM0100 設計管理

検査項目 設計管理の適切性

検査対象

- 1) 6 号機 燃料取替機制御装置更新工事に伴うインターロック設計管理【令和 7 年度第 1 四半期に検査を開始したもの】【検査未了】

(5) BM0110 作業管理

検査項目 作業管理

検査対象

- 1) 6 号機 原子炉内蔵型再循環ポンプ低速運転における不具合対応【令和 7 年度第 1 四半期に検査を開始したもの】【検査未了】

(6) B00010 サーベイランス試験

検査項目 標準的な検査

検査対象

- 1) 2 号機 非常用ディーゼル発電機 (A) 手動起動試験
2) 6 号機 非常用ディーゼル発電機 (C) 手動起動試験
3) 1 号機 非常用ディーゼル発電機 (B) 手動起動試験

(7) B01020 設備の系統構成

検査項目 標準的系統構成

検査対象

- 1) 6 号機 原子炉圧力容器漏えい検査に伴う原子炉冷却材バウンダリ昇圧および降圧後の系統構成
2) 6 号機 原子炉格納容器漏えい率検査に伴う原子炉格納容器バウンダリ昇圧および降圧後の系統構成
3) 6 号機 燃料プール冷却浄化系弁点検に伴う系統構成の変更
4) 5 号機 原子炉補機冷却水系タイライン運転時の系統構成の変更

(8) B01030 原子炉起動・停止

検査項目 原子炉起動停止

検査対象

- 1) 6号機 原子炉起動【令和7年度第1四半期に検査を開始したもの】【検査未了】

(9) B01040 動作可能性判断及び機能性評価

検査項目 動作可能性判断及び機能性評価

検査対象

- 1) モニタリングポスト No. 5 低線量率計の電源断警報発生時における対応
- 2) 6号機 原子炉内蔵型再循環ポンプ再点検後の運転性能試験
- 3) 5号機 原子炉補機冷却海水系(B) ストレーナブロー弁閉塞に伴う特別採用に係る評価
- 4) 6号機 制御棒駆動装置再点検後の動作確認試験
- 5) 社内ネットワーク機器更新を契機に発生したモニタリングポストの一時的な測定データ表示不良に係る屋外放射線監視システムの動作可能性について【令和7年度第1四半期に検査を開始したもの】
- 6) 2号機 非常用ディーゼル発電機(B) 点検手入れ後の負荷試験
- 7) 海水放射線モニタ建屋の光ケーブル断線における屋外放射線監視システムへの影響と対応
- 8) 6号機 第一ガスタービン発電機(共用A) トリップ事象(LC0 逸脱発生)

(10) B00060 燃料体管理(運搬・貯蔵)

検査項目 燃料の運搬等

検査対象

- 1) 4号機 使用済燃料の中間貯蔵施設向け構内輸送【令和7年度第1四半期に検査を開始したもの】【検査未了】

検査項目 燃料の貯蔵管理

検査対象

- 1) 4号機 使用済燃料貯蔵プールの中間貯蔵施設向け使用済燃料搬出後の貯蔵状況

(11) B01070 運転員能力

検査項目 中央制御室・現場での運転員の活動状況

検査対象

- 1) 非常用ディーゼル発電機手動起動試験時の運転員の活動状況

2) 6号機 起動領域モニタ (F) 計数率及びペリオド指示ダウンスケールの発見遅れ

(12) BE0010 自然災害防護

検査項目 自然災害防護

検査対象

1) 6号機 自然災害を起因とする事故対応訓練

(13) BE0020 火災防護

検査項目 四半期検査

検査対象

- 1) 火気取扱作業現場における火災リスクの低減
- 2) 管理区域内における可燃物一時保管および少量危険物の一時保管
- 3) 7号機 柏崎市公設消防と自衛消防隊合同による消火訓練
- 4) 固体廃棄物貯蔵庫近くの枯れ草からの火災
- 5) 4号機 所内変圧器油抜き取り作業における危険物の漏えい防止および火災リスクの低減

(14) BE0060 重大事故等対応要員の能力維持

検査項目 重大事故等発生時に係る力量の維持向上のための教育及び訓練

検査対象

- 1) 6/7号機 重大事故対応アクセスルートの維持と可搬型送水ポンプによる送水訓練
- 2) 可搬型送水ポンプによる 6/7号原子炉格納容器内への代替注水訓練

(15) BE0100 津波防護

検査項目 津波防護

検査対象

- 1) 太平洋沿岸津波警報発表に伴う監視強化
 - 2) 使用済燃料の中間貯蔵施設向け輸送船の津波警報発令時の緊急離岸訓練
- 【検査未了】

(16) BR0010 放射線被ばくの管理

検査項目 放射線被ばくの管理

検査対象

- 1) 6号機 原子炉内蔵型再循環ポンプモータ再点検作業に伴う被ばく管理
- 2) 6号機 使用済燃料プールゲートの取替工事に伴う旧プールゲート除染作業

における被ばく管理

(17) BR0070 放射性固体廃棄物等の管理

検査項目 放射性固体廃棄物等の管理

検査対象

- 1) 6号機 使用済燃料プールゲートの取替工事に伴う旧プールゲートの所内運搬
- 2) 6号機 使用済燃料プールゲートの取替工事に伴う工具箱の所内運搬における積込車両の誤り

(18) BQ0010 品質マネジメントシステムの運用

検査項目 半期検査

検査対象

- 1) ヒューマンエラー根本原因分析結果に基づく改善策の実施状況【令和7年度第1四半期に検査を開始したもの】【検査未了】

(19) BQ0050 事象発生時の初動対応

検査項目 事象発生時の初動対応

検査対象

- 1) 屋外エリアにおける枯れ草からの火災

4.2 チーム検査

(1) BM0010 使用前事業者検査に対する監督

検査項目 使用前事業者検査(変更工事)

検査対象

- 1) 6号機 新規制基準への適合性に係る工事【令和6年度第3四半期に検査を開始したもの】【検査未了】
- 2) 7号機 新規制基準への適合性に係る工事【令和5年度第4四半期に検査を開始したもの】【検査未了】

(2) BM1050 供用期間中検査に対する監督

検査項目 供用期間中検査(BWR)

検査対象

- 1) 6号機 供用期間中検査

(3) B00060 燃料体管理(運搬・貯蔵)

検査項目 発送前検査

検査対象

- 1) 発送前検査の実施状況【検査未了】
- 2) 輸送容器の定期自主検査の実施状況【検査未了】

(4) BE0080 重大事故等対応訓練のシナリオ評価

検査項目 重大事故等発生時に係る訓練

検査対象

- 1) 成立性の確認訓練【検査未了】

東京電力ホールディングス株式会社

柏崎刈羽原子力発電所

令和7年度(第2四半期)

原子力規制検査報告書

(核物質防護に係る基本検査)

令和7年11月

原子力規制委員会

目 次

1. 実施概要	1
2. 運転等の状況	1
3. 検査結果	1
4. 検査内容	2
別添 1 検査指摘事項等の詳細	別添 1-1
別添 2 確認資料	
1 日常検査	別添 2-1
2 チーム検査	別添 2-3

1. 実施概要

(1) 事業者名: 東京電力ホールディングス株式会社

(2) 事業所名: 柏崎刈羽原子力発電所

(3) 物理的防護

検査期間: 令和7年7月1日～9月30日

検査実施者:

柏崎刈羽原子力規制事務所 1名

六ヶ所原子力規制事務所 1名

伊方原子力規制事務所 1名

放射線防護グループ核セキュリティ部門 3名

検査補助者:

柏崎刈羽原子力規制事務所 3名

2. 運転等の状況

号機	検査期間中の運転、停止、廃止措置及び建設の状況
1号機	停止中(定期検査中)
2号機	停止中(定期検査中)
3号機	停止中(定期検査中)
4号機	停止中(定期検査中)
5号機	停止中(定期検査中)
6号機	停止中(定期検査中)
7号機	停止中(定期検査中)

3. 検査結果

検査は、検査対象に対して適切な検査運用ガイド(以下単に「ガイド」という。)を使用して実施した。検査対象については、原子力検査官が事前に入手した現状の施設の運用や核物質防護に関する事項、防護措置の状況、リスク情報等を踏まえて選定した。検査においては、事業者の実際の防護措置、社内基準、記録類の確認、関係者への聞き取り等により活動状況を確認した。ガイドは、原子力規制委員会ホームページに掲載されている。

第2四半期の結果は、以下のとおりである。

3.1 検査指摘事項等

重要度又は規制措置が確定した検査指摘事項等は、以下のとおりである。

詳細は、別添1参照

(1)

件名	核物質防護秘密の不適切な取扱い
----	-----------------

検査運用ガイド	PP1201 核物質防護秘密の管理
検査種別	日常検査及びチーム検査
事象の概要	<p>令和7年6月17日、柏崎刈羽原子力発電所からの報告により、核物質防護秘密に登録している文書の一部が、必要な手続を取られることなく複製され、協力企業に配布されていたことが判明した。</p> <p>本件は、令和7年度第1四半期の原子力検査報告書の検査継続案件「核物質防護秘密の管理の手順から外れた取扱い（令和7年6月）」である。</p>
重要度/深刻度	緑/SLIV(通知なし)

(2)

件名	不十分な点検による「破壊行為の用に供され得る物品」の持込
検査運用ガイド	PP1406 防護区域等の出入口の措置(目視等による点検)
検査種別	日常検査及びチーム検査
事象の概要	<p>令和7年7月23日、柏崎刈羽原子力発電所からの報告により、破壊行為の用に供され得る物品に指定している工具1台が申請もなく、また、防護区域等における物品点検も十分になされないまま、柏崎刈羽原子力発電所5号機の防護区域内に持ち込まれたことが判明した。</p>
重要度/深刻度	緑/SLIV(通知なし)

3.2 検査継続案件

検査でパフォーマンス劣化が確認された(その可能性があるものを含む。)が、更なる事実確認等のため、検査を継続している案件は、以下のとおりである。

(1)

件名	核物質防護秘密の管理の手順から外れた取扱い
検査運用ガイド	PP1201 核物質防護秘密の管理
検査種別	チーム検査
検査開始時期	令和7年度第1四半期
事象の概要	<p>令和7年6月12日、事業者より、本社及び発電所において核物質防護秘密の管理の手順から外れた取扱いと考えられる事案を確認したとの報告があった。詳細について調査中。</p>

4. 検査内容

4.1 日常検査

(1) PP1102 特定核燃料物質の常時監視

検査対象

- 1) 特定核燃料物質の常時監視に関する設備
- 2) 特定核燃料物質の常時監視に関する装置
- 3) 特定核燃料物質の常時監視に関する巡視記録

(2) PP1301 防護区域等への人の立入り(常時立入者への証明書等の発行)

検査対象

- 1) 防護区域等への常時立入者として証明書等を発行された者

(3) PP1303 個人の信頼性確認

検査対象

- 1) 個人の信頼性確認に関する現場確認

(4) PP1402 防護区域への車両の立入り

検査対象

- 1) 防護区域への入域許可証の発行を受けた車両

(5) PP1403 周辺防護区域及び立入制限区域への車両の立入り

検査対象

- 1) 周辺防護区域及び立入制限区域の車両入口を通過する車両

(6) PP1406 防護区域等の出入口の措置(目視等による点検)

検査対象

- 1) 防護区域等へ人、手荷物、車両によって持ち込まれる物品及び防護区域等から人、手荷物、車両によって持ち出される物品【検査指摘事項等あり】

(7) PP1407 防護区域の出入口の措置(金属探知機、核物質検知装置等による点検)

検査対象

- 1) 防護区域等へ入域する人、車両及び持ち込まれる荷物並びに防護区域から退域する人、車両及び持ち出される荷物

(8) PP1408 防護区域等の出入口の措置(出入口の常時監視)

検査対象

- 1) 防護区域等の出入口

(9) PP1503 周辺防護区域の設定(周辺防護区域の柵等の障壁)

検査対象

- 1) 周辺防護区域の柵等

(10) PP1504 周辺防護区域の設定(人の侵入を確認できる設備又は装置)

検査対象

- 1) 周辺防護区域の柵に沿って設置された人の侵入を確認できる設備
- 2) 周辺防護区域の柵に沿って設置された人の侵入を確認できる装置

(11) PP1505 立入制限区域の設定(立入制限区域の柵等の障壁)

検査対象

- 1) 立入制限区域境界の柵等

(12) PP1507 立入制限区域の設定(人の侵入を確認できる設備又は装置)

検査対象

- 1) 立入制限区域の柵等に沿って設置された人の侵入を確認できる設備
- 2) 立入制限区域の柵等に沿って設置された人の侵入を確認できる装置

(13) PP1508 防護区域等の巡視

検査対象

- 1) 巡視時の器材及び巡視記録

(14) PP1514 出入口における鍵の管理

検査対象

- 1) 鍵本体
- 2) 鍵貸出し簿
- 3) 点検簿

(15) PP1520 防護区域内防護対象枢要設備の周囲の柵等の中の作業又は巡視

検査対象

- 1) 防護区域内防護対象枢要設備の周囲の柵等の中での作業
- 2) 防護区域内防護対象枢要設備の周囲の柵等の中での巡視

(16) PP1526 防護設備の点検及び保守

検査対象

- 1) 維持管理状況

(17) PP1527 見張人の詰所

検査対象

- 1) 見張人の詰所

(18) PP1530 監視所の連絡手段

検査対象

- 1) 監視所の連絡手段

(19) PP1531 性能試験の実施及び核物質防護システム全体の有効性評価

検査対象

- 1) 性能試験の実施及び核物質防護システム全体の有効性評価

(20) PP1801 教育及び訓練

検査対象

- 1) 教育現場確認

(21) PP1804 安全実績指標の検証(核物質防護)

検査対象

- 1) 侵入検知器及び監視カメラの使用不能時間割合

4.2 チーム検査

(1) PP1201 核物質防護秘密の管理

検査対象

- 1) 核物質防護秘密文書の管理状況【検査指摘事項等あり】【検査継続案件あり】

(2) PP1406 防護区域等の出入口の措置(目視等による点検)

検査対象

- 1) 防護区域等へ人、手荷物、車両によって持ち込まれる物品及び防護区域等から人、手荷物、車両によって持ち出される物品【検査指摘事項等あり】

(3) PP1509 特定核燃料物質を収納する容器の施錠及び封印(事業所内運搬)

検査対象

- 1) 特定核燃料物質を運搬する容器への施錠及び封印に関する要領

(4) PP1510 特定核燃料物質の輸送に関する関係機関への事前通知(事業所内運搬)

検査対象

- 1) 実施した特定核燃料物質の輸送に関する関係機関への事前通知

別添 1 検査指摘事項等の詳細

(1)

件名	核物質防護秘密の不適切な取扱い
監視領域(小分類)	核物質防護
検査運用ガイド	PP1201 核物質防護秘密の管理
検査項目	核物質防護秘密の管理
検査対象	核物質防護秘密文書の管理状況
検査種別	日常検査及びチーム検査
検査指摘事項等の 重要度/深刻度	緑/SLIV(通知なし)
検査指摘事項等の 概要	<p>令和 7 年 6 月 17 日、原子力規制事務所の核物質防護対策官は、原子力規制検査（日常検査）において、柏崎刈羽原子力発電所関係者から、以下の報告を受けて本件を認知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託事業者に配布したファイルの中から、本来配布されるべきではない柏崎刈羽原子力発電所の核物質防護秘密文書（以下「秘密情報」という。）である、事業者作成の要領書の一部が発見された。 ・ 今回発見された秘密情報を含む文書は一部ページである。 <p>本件を受け、令和7年7月2日及び17日に、原子力規制検査(チーム検査)を実施し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回発見された秘密情報を含む文書は、平成29年8月頃に東京電力社員が秘密情報に該当する可能性があるとの認識が無いまま、定められた手順を取らずに文書を複製し、委託事業者に配布したこと ・ 配布された文書は、委託事業者において、厳重に管理されており、文書の紛失や情報漏えいがなかったこと <p>等を確認した。</p> <p>核物質防護秘密を含む文書が定められた手順を取られることなく複製され、委託事業者に配布されたことは、規制要求を満足することに失敗している状態である。これらの失敗は、合理的に予測可能であり、予防する措置を講ずることが可能であったことから、パフォーマンス劣化に該当する。</p> <p>このパフォーマンス劣化は、「核物質防護」の監視領域(小分類)「核物質防護」の評価領域の属性「核物質防護情報の管理」に関連付けられ、当該監視領域(小分類)の目的に悪影響</p>

	<p>を及ぼすことから、検査指摘事項に該当する。</p> <p>さらに、「原子力規制検査における規制措置に関するガイド」に基づき評価を行った結果、「規制活動への影響」等の要素は確認されておらず、重要度評価の結果も踏まえ、深刻度は「SLIV」と判定する。また、本件は同ガイド「3.3(2)」の要件を満足することから、違反等の通知は実施しない。</p>
事象の説明	<p>令和7年6月17日、原子力規制事務所の核物質防護対策官は、原子力規制検査(日常検査)において、柏崎刈羽原子力発電所関係者から、以下の報告を受けて本件を認知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託事業者に配布したファイルの中から、本来配布されるべきではない柏崎刈羽原子力発電所の核物質防護秘密文書(以下「秘密情報」という。)である、事業者作成の要領書の一部が発見された。 ・ 今回発見された秘密情報を含む文書は一部ページである。 <p>本件報告を受け、令和7年7月2日及び17日に、原子力規制検査(チーム検査)を実施し、以下のことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京電力では、秘密情報の取扱いについて、必要な手続をマニュアルで定めている。 ・ 今回発見された秘密情報を含む文書(以下「抜粋版」という。)は、柏崎刈羽原子力発電所における緊急時対応計画を定めた文書の一部であり、本文を除いた添付資料の部分である。 ・ 抜粋版の各ページ下部には「秘密情報」と表示されているが、同発電所において秘密情報として登録した文書に付す表示はない。 ・ 抜粋版は、現行の緊急時対応計画を定めた文書の添付資料とほぼ同じ内容である。 ・ 抜粋版を同発電所から受領した委託事業者は、平成29年8月17日付けで配布された「一般警備業務委託・委託追加仕様書」に今回発見された文書名が記載されていたため、同発電所に文書の提供を求めた。同発電所から、「同文書は秘密情報であるため全部を渡せないが抜粋版を渡すとの説明を受け、平成29年8月頃、ページ数を確認していないが抜粋版を受け取った」と説明した。 ・ 抜粋版の複製や配布等に係る経緯について当事者に確認したところ、「当時、抜粋版が秘密情報に該当する可能性があるという認識がなく、上長に承認を取らずに印刷して配布したこと」が判明した。 ・ 委託事業者では、同発電所から手続を経て配布を受けた管理情報を1冊のファイルにまとめており、管理

	<p>情報の一覧表を作成して、情報の受領や返却等に係る記録を残している。委託事業者は、抜粋版を管理情報として受領したと認識しているが、文書一式でないことから、この一覧表に記載しなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜粋版は、委託事業者において施錠管理されていたが、委託事業者の業務上必須のものではなく、今回発見されるまで誰にも閲覧されることはなかった。 ・ 当該委託事業者では、情報保護区域の設定をしていないなど、秘密情報を取り扱うことができる環境にないことから、これまでに同発電所から秘密情報の配布を受けた実績はない。また、同発電所の秘密情報を閲覧する資格のある者もない。 ・ 同発電所では、情報管理責任者が年1回以上、委託事業者の核物質防護情報の保管、廃棄等の管理状況について確認(以下「監査」という。)することとなっている。 ・ しかし、同監査は、管理情報の一覧表に記載のある文書の表紙等を確認するにとどまり、これまでに抜粋版の存在を指摘することはなかった。なお、抜粋版はこの一覧表に記載されていないが、インデックスが付いており、その存在が容易に分かる状態にあった。 ・ また、監査と別に、同発電所では委託事業者に配布した管理情報ファイルの更新を行っており、抜粋版が委託事業者に配布された以降も適宜実施している。令和7年6月16日に同ファイルを更新する際、同発電所において抜粋版を発見したものである。 <p>事業者では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何が秘密情報が整理できていなかったこと ・ 東京電力社員の秘密情報に対する意識が低かったこと ・ 1人で秘密情報にアクセスできる状態であったこと ・ 監査における委託先の情報管理の確認方法が明確でなかったこと <p>などが問題点と認識しており、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秘密情報にアクセスする際の2人ルール化(令和7年6月開始) ・ 複写防止用紙による秘密情報の管理(令和7年8月開始) ・ 情報保護区域内にカメラ設置(令和7年8月完了) ・ 情報管理教育の充実化(令和7年9月完了) ・ 監査において委託先に配布した文書を全て台帳と突合する運用に変更して実施(令和7年12月予定) <p>などの再発防止策を講ずることとしている。</p>
--	---

<p>検査指摘事項の重要度評価等</p>	<p>[パフォーマンスの劣化]</p> <p>規制要求において、核物質防護に関する情報を適切に管理することを求められているところ、核物質防護秘密を含む文書が定められた手順を取られることなく複製され、委託事業者に配布されており、規制要求を満足することに失敗している。</p> <p>これらの失敗は、事業所の下部規定に必要な手順が規定されていることから、合理的に予測可能であり、予防する措置を講ずることが可能であるため、パフォーマンス劣化に該当する。</p> <p>[スクリーニング]</p> <p>核物質防護秘密を含む文書が定められた手順を取られることなく複製され、委託事業者に配布されたことは、規制要求を満足することに失敗している状態である。これらの失敗は、合理的に予測可能であり、予防する措置を講ずることが可能であったことから、パフォーマンス劣化に該当する。</p> <p>このパフォーマンス劣化は、「核物質防護」の監視領域（小分類）「核物質防護」の評価領域の属性「核物質防護情報の管理」に関連付けられ、当該監視領域（小分類）の目的に悪影響を及ぼすことから、検査指摘事項に該当する。</p> <p>[重要度評価]</p> <p>1 初期評価結果</p> <p>核物質防護に係る重要度評価に関するガイドの表 2「重要度評価の附属書の選定ルート」を基に判断したところ、当該指摘事項は、「附属書 2」で判断することとなる。</p> <p>2 重要度評価結果</p> <p>本件の検査指摘事項については、次のパフォーマンス劣化を認める。</p> <p>(1) 核物質防護秘密の管理</p> <p>(2) 核物質防護秘密の管理</p> <p>(3) 核物質防護秘密の管理</p> <p>附属書のフロー図を基に、重要度決定プロセスを確認した結果、当該検査指摘事項には放置された核物質防護秘密(核物質防護秘密の所在不明を含む。)が関係していないため、当該</p>
----------------------	---

	検査指摘事項の重要度は「緑」と判定する。
規制措置	<p>〔深刻度評価〕</p> <p>検査指摘事項は、核物質防護秘密を含む文書が定められた手順を取られることなく複製され、委託事業者に配布されたものであり、核物質防護に実質的な影響を及ぼすものであるが、「原子力規制検査における規制措置に関するガイド」に基づき評価を行った結果、深刻度の評価において考慮する「規制活動への影響等」の要素は確認されていないことから、検査指摘事項の重要度評価の結果も踏まえ、事象の深刻度は「SL IV」と判定する。</p> <p>また、事業者において是正措置が講じられていることを確認しており、同ガイド「3.3(2)」の要件を満足することから、違反等の通知は実施しない。</p>
整理番号	J05-202511-02

(2)

件名	不十分な点検による「破壊行為の用に供され得る物品」の持込
監視領域(小分類)	核物質防護
検査運用ガイド 検査項目 検査対象	PP1406 防護区域等の出入口の措置(目視等による点検) 防護区域等の出入口の措置(目視等による点検) 防護区域等へ人、手荷物、車両によって持ち込まれる物品及び防護区域等から人、手荷物、車両によって持ち出される物品
検査種別	日常検査及びチーム検査
検査指摘事項等の重要度/深刻度	緑/SLIV
検査指摘事項等の概要	<p>令和7年7月24日、原子力規制事務所の核物質防護対策官は、原子力規制検査(日常検査)において、柏崎刈羽原子力発電所関係者から、</p> <p>持込許可のない工具が、持込時の点検も十分になされないまま、柏崎刈羽原子力発電所5号機の防護区域に持ち込まれた</p> <p>との報告を受け、令和7年9月17日から18日にかけて原子力規制検査(チーム検査)を実施した。</p> <p>不十分な点検により「破壊行為の用に供され得る物品」が防護区域に持ち込まれたことは、規制要求を満足することに失敗している状態である。これらの失敗は、合理的に予測可能であり、予防する措置を講ずることが可能であったことから、パフォーマンス劣化に該当する。</p> <p>このパフォーマンス劣化は、「核物質防護」の監視領域(小分類)「核物質防護」の評価領域の属性「出入管理」に関連付けられ、当該監視領域(小分類)の目的に悪影響を及ぼすことから、検査指摘事項に該当する。</p> <p>さらに、「原子力規制検査における規制措置に関するガイド」に基づき評価を行った結果、「規制活動への影響」等の要素は確認されておらず、重要度評価の結果も踏まえ、深刻度は「SLIV」と判定する。また、本件は同ガイド「3.3(2)」の要件を満足することから、違反等の通知は実施しない。</p>
事象の説明	令和7年7月24日、原子力規制事務所の核物質防護対策官は、原子力規制検査(日常検査)において、柏崎刈羽原子力発電所関係者から、

	<p>持込許可のない工具(以下「当該物品」という。)が、持込時の点検も十分になされないまま、柏崎刈羽原子力発電所5号機の防護区域に持ち込まれたとの報告を受けた。</p> <p>本件報告を受け、令和7年9月17日から18日にかけて原子力規制検査(チーム検査)を実施し、以下のことを確認した。</p> <p>【セキュリティ関係の状況】</p> <p>柏崎刈羽原子力発電所において「破壊行為の用に供され得る物品」を持ち込もうとする事業者(以下「持込事業者」という。)は、立入制限区域、周辺防護区域及び防護区域では申請書類により、事業者のセキュリティ管理部(以下「セキュリティ側」という。)に申請し、許可を受ける必要がある。</p> <p>当該物品は、防護区域内の保全工事で使用する工具である。同発電所では、持込に申請を必要とする物品を規制対象物品リストで定めており、当該物品は、このリストに該当する。</p> <p>令和7年7月17日、当該物品の持込事業者は、セキュリティ側に持込申請をする必要がないと判断して防護区域内の仮置きエリアに当該物品を持ち込んだ。</p> <p>当該物品の持込事業者が、防護区域に至る過程で警備員による物品点検を受けた状況は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立入制限区域の警備員は、当該物品を車両のトランクに積載されている状態で点検したが、規制対象物品リストに当てはまる物品ではないと誤って認識し、立入制限区域への持込を認めた。 ・ 周辺防護区域の警備員は、当該物品を物品点検用のトレーに入れられた状態で点検したが、規制対象物品リストに当てはまる物品ではないと誤って認識し、周辺防護区域への持込を認めた。 ・ 防護区域の警備員は、当該物品を防護区域の外側で点検したが、規制対象物品リストに当てはまる物品ではないと誤って認識し、持込を認めた。 <p>【セーフティ関係の状況】</p> <p>当該物品の持込事業者は、防護区域内の仮置きエリアに工事用機材を仮置きする際の申請書類により、事業所の第一保全部(以下「セーフティ側」という。)に当該物品の仮置きを</p>
--	--

	<p>申請し、許可を受けた。</p> <p>申請書類には、セキュリティ申請物品の有無に係る確認欄があり、「有」にチェックが付されていた。「有」の場合、セキュリティ側に対する申請時にコピーを添付することが明記されていたが、当該物品についてセキュリティ側に対する申請はなされなかった。</p> <p>また、セーフティ側担当者は、令和7年1月17日付けでコピーを工事主管グループ経由でセキュリティ側への申請書に添付して提出する運用に変更されたことを知らなかった。</p> <p>事業者では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 警備員は規制対象物品リストを確認しながら点検したものの、リストの写真と形状が違う状態であったことから、規制対象物品ではないと誤って判断したこと ・ 持込事業者がセーフティ側に仮置き申請をした際、セーフティ側は持込事業者に対し、同申請書に記載された規制対象物品の全てをセキュリティ側に申請しているか確認していなかったこと <p>などが問題点と認識しており、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規制対象物品リストの見直し(令和7年9月完了) ・ 警備員及び持込事業者に対して、見直した規制対象物品リストに関する周知・教育(令和7年9月完了) ・ 工事主管グループに対して、仮置き申請を受けた際、全ての規制対象物品がセキュリティ側に持込申請されているか確認する運用について周知・教育(令和7年9月完了) <p>などの再発防止策を講じている。</p>
<p>検査指摘事項の重要度評価等</p>	<p>[パフォーマンスの劣化]</p> <p>規制要求において、防護区域等の出入口において「破壊行為の用に供され得る物品」が持ち込まれないよう点検を行うことが求められているところ、当該物品は警備員による十分な点検を受けられないまま防護区域へ持ち込まれており、規制要求を満足することに失敗している。</p> <p>これらの失敗は、事業所の下部規定に規定されていることから合理的に予測可能であり、予防する措置を講ずることが可能であるため、パフォーマンス劣化に該当する。</p> <p>[スクリーニング]</p> <p>不十分な点検により「破壊行為の用に供され得る物品」が防護区域に持ち込まれたことは、規制要求を満足することに</p>

	<p>失敗している状態である。これらの失敗は、合理的に予測可能であり、予防する措置を講ずることが可能であったことから、パフォーマンス劣化に該当する。</p> <p>このパフォーマンス劣化は、「核物質防護」の監視領域(小分類)「核物質防護」の評価領域の属性「出入管理」に関連付けられ、当該監視領域(小分類)の目的に悪影響を及ぼすことから、検査指摘事項に該当する。</p> <p>[重要度評価]</p> <p>1 初期評価結果</p> <p>核物質防護に係る重要度評価に関するガイドの表 2「重要度評価の附属書の選定ルート」を基に判断したところ、当該検査指摘事項は、「附属書 5」で判断することとなる。</p> <p>2 重要度評価結果</p> <p>本件の検査指摘事項については、次のパフォーマンス劣化を認める。</p> <p>(1) 防護区域等の出入口の措置</p> <p>(2) 防護区域等の出入口の措置</p> <p>附属書のフロー図を基に、検査指摘事項が影響を及ぼす区域及び悪影響を及ぼしている防護措置を確認した結果、当該検査指摘事項で最も影響が大きい区域は防護区域となり、出入管理における防護措置の要件を Tier I ～Tier III ごとに集計し、影響を受けるプログラム要素の合計数を採点表により採点したところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出入管理：Tier I：2 点 ・ 出入管理：Tier II：1 点 <p>と合計点は「3 点」となり、評価表により検査指摘事項の重大性を特定した結果、合計点が 0～6 点は緑の評価となることから、重要度評価を「緑」と判定する。</p>
規制措置	<p>[深刻度評価]</p> <p>検査指摘事項は、不十分な点検による「妨害破壊行為の用に供され得る物品」の防護区域への持込みであり、核物質防護に実質的な影響を及ぼすものであるが、「原子力規制検査における規制措置に関するガイド」に基づき評価を行った結果、深刻度の評価において考慮する「規制活動への影響等」の要素は確認されていないことから、検査指摘事項の重要度評価</p>

	<p>の結果も踏まえ、事象の深刻度は「SLIV」と判定する。</p> <p>また、事業者において是正措置が講じられていることを確認しており、同ガイド「3.3(2)」の要件を満足することから、違反等の通知は実施しない。</p>
整理番号	J05-202511-03

地域の会 委員からのご質問に対する回答について

2025 年 12 月 3 日

原子力規制庁

(本間委員)

11 月の共有会議において、妊婦、乳幼児についても現在の屋内退避の方針で問題ないと考えている旨の発言がありました。

現在の避難計画では、一般成人住民は事故時一週間で 100mSv 程度までの被ばくを目安として計画が立てられていると説明されております。

質問です。乳幼児や妊婦について、現在の避難計画ではどの程度の被ばく線量を目安として、立案されているのでしょうか？お聞かせください。

(回答)

○原子力規制委員会では、重篤な確定的影響を回避又は最小化し、確率的影響のリスクを低減するための基準として、「事前対策めやす線量」を実効線量で 100mSv と定め、その線量を上回る被ばくの発生がないよう防護戦略を策定するように考え方を示しており、これは、乳幼児・妊婦等を区別しない共通した基準となっております。

○ただし、原子力災害対策指針では、「住民等の被ばく線量を合理的に達成できる限り低くする」ことを基本的な考え方として、放射性物質の放出のおそれが高まった全面緊急事態の段階において、

- ・PAZ 内の住民については避難を実施する
- ・UPZ 内の住民については屋内退避を実施、その後放射性物質の放出があった場合には OIL1、OIL2 の基準を踏まえて避難や一時移転を実施する

という防護措置により、住民の被ばくを回避又は低減することとしているため、乳幼児や妊婦を含む住民の被ばく線量は事前対策めやす線量より十分に小さくなるものと考えられます。

○その上で、原子力災害対策指針で、乳幼児・妊婦に対して、優先して原子力災害時の防護措置等を実施することとしており、

- ・PAZ 内の乳幼児・妊婦について、施設敷地緊急事態要避難者として全面緊急事態の前の段階において避難を実施する
- ・安定ヨウ素剤の配布・服用にあたっては、乳幼児・妊婦を優先的に配布・服用すべき対象としている
- ・OIL に基づく防護措置として避難又は一時移転を行う場合には、19 歳未満の者、妊婦及び授乳婦に対し、甲状腺被ばく線量モニタリングを実施する

など、優先して原子力災害時の防護措置等を実施することとしています。